

環境教育掲示用教材 解説書

東京都教育委員会では「東京都教育ビジョン（第3次・一部改定）」の中で、体験的な活動等を取り入れた環境学習を通じて、子供たちが自主的・積極的に環境保全活動に取り組むことが重要であると示しています。

環境教育掲示用教材は、児童・生徒に地球環境保全に関する必要な知識を与えるとともに、3Rをはじめとする環境に配慮した行動の大切さを理解させ、その実践を促すことを目的として作成した教材です。

本解説書では、学校の授業等で活用できるよう、環境教育掲示用教材を活用した活用例等を紹介합니다。

環境教育掲示用教材の特徴

特徴 1

地球環境保全に関する課題を各回のテーマに設定し、児童・生徒が地球環境保全に高い関心をもち、環境に配慮した行動を促す内容を掲載します。

特徴 2

発達段階に応じた内容となるよう、小学校低学年版、小学校中学年版、小学校高学年版、中学校・高等学校版の4種類を作成します。

特徴 3

都内公立学校の全ての学級に年4回配布し、教室等に掲示することを通して、環境教育への取組を支援します。

特徴 4

学校の授業等で活用できるよう、短時間の活用例等を紹介した解説書と児童・生徒用のワークシートを添付します。

環境教育掲示用教材

『MOTTAINAI』で、ごみを減らそう

日本の年間ごみ総排出量は4398万トン

ごみを減らすための3R

- Reduce (削減)**：つめがたがきれる歯ブラシなど、リサイクルが困難なものは、なるべく減らす。
- Reuse (再利用)**：古雑誌や古本、古玩具などを再利用して使う。
- Recycle (再資源化)**：資源物やリサイクル可能なものは、分別して回収する。

ごみの削減

ごみの削減は、ごみ減量、資源物の再利用、リサイクルの推進による。

ごみの削減は、ごみ減量、資源物の再利用、リサイクルの推進による。

解説書

環境教育掲示用教材の活用例

環境教育について調べて、自分ができることを実行しましょう。『MOTTAINAI』で、ごみを減らそう

活用例の例

自分ができる3Rについて考えよう

活用例の例

自分ができる3Rについて考えよう

ワークシート

小学校高学年版

環境教育について調べて、自分ができることを実行しましょう。『MOTTAINAI』で、ごみを減らそう

ごみの削減

ごみを減らすための3Rについて考えよう

ごみの削減

ごみを減らすための3Rについて考えよう

環境問題について調べて、自分にできることを実行しましょう。

「MOTTAINAI」で、ごみを減らそう

環境学習の視点

自分たちの日々の生活や行動が地球環境保全につながることに理解し、環境に配慮した生活を心掛けていこうとする態度を育てる。

ねらい

捨てられているごみが、限りある資源から作られていることを理解するとともに、ごみを減らすための環境活動「3R」について自分にできる取組を考え、実践する。

活動例

活動内容（○主な活動）	教師の支援（◇留意点）	◆掲示用教材等との関連
<p>○掲示用教材①、②を見て、ごみの量や家庭から出るごみの中身について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分にできる 3R について考えよう</p> </div>	<p>◇円グラフや図を基に、家庭から出るごみの中身について話し合うとともに、ごみの量の多さに気付かせる。</p>	<p>◆掲示用教材①、② ◆ワークシート①</p>
<p>○掲示用教材③を基に、ごみを減らすための 3R について、個人やグループで調べるとともに、学級全体で話し合う。</p>	<p>◇ 3R について理解させるとともに、ごみを減らすための個人や社会の取組について考えさせる。</p>	<p>◆掲示用教材③ ◆ワークシート②</p>
<p>○掲示用教材④を基に、日本の食品ロスについて話し合う。</p>	<p>◇食品ロスについて、理解させるとともに、「もったいない」という言葉の意味について考えさせる。</p>	<p>◆掲示用教材④</p>
<p>○掲示用教材⑤、⑥、⑦を参考に、自分にできる取組について考える。</p>	<p>◇イラストを参考に、これまでの生活を振り返らせるとともに、自分にできる取組について考えさせる。</p>	<p>◆掲示用教材⑤、⑥、⑦ ◆ワークシート③</p>
<p>○気付いたことや感想を発表する。</p>	<p>◇児童一人一人が地球環境保全につながる生活を心掛ける必要性に気付くよう、活動を振り返らせる。</p>	

今、私たちが住む地球には、いろいろな環境問題が起きています。環境を学ぼう 環境問題について調べて、自分にできることを実行しましょう。

「MOTTAINAI」で、ごみを減らそう

日本の年間ごみ総排出量は4398万トン

地域などで自主的に回収された資源ごみの量 239万トン

家庭などからのごみ排出量 2854万トン

会社や工場などからのごみ排出量 4398万トン

資源ドーム約118万トン

家庭から出るごみの中身は何？

家庭から出るごみの量の中で一番多いのは、紙類と生ごみです。生ごみには、調理の残りくずのほか、賞味期限が切れた食品など、ほとんど手を付けられない食品もふくまれます。

紙類 34.4%

生ごみ 32.4%

プラスチック類 11.5%

木・草・竹 5.0%

ガラスなど 4.0%

金属 3.2%

その他 6.0%

繊維 3.1%

ごみを減らすための3R

Reduce (ごみ削減) つまみかえできる製品を選んだり、マイバックで買い物したりするなど、使う資源やごみを減らすこと

Reuse (再利用) 壊れた物を修理して使ったり、ものを最後まで使って、繰り返し使ったりすること

Recycle (再資源化) 古新聞やペットボトルなどを買い替わったものを資源として再び利用すること

都の取組 5

パソコンや携帯電話などの家電製品には貴金属などが含まれています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて不要になった小型家電製品から金・銀・銅を取り出してリサイクルメダル(5000個)をつくる取組を進めています。

金 10kg + 銀 1233kg + 銅 736kg = ×2000万台

自分にできる取組を考えよう 6

「MOTTAINAI」とは 7

環境分野でのノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイさんが、2005年の東日本の震災に被災された方々に「もったいない」という言葉を贈りました。「もったいない」はReduce(ごみ削減)・Reuse(再利用)・Recycle(再資源化)という環境活動の3Rをたった一言で表しています。マータイさんはこの美しい日本語を国際化する世界で共通する言葉「MOTTAINAI」として広めることを目指しました。

多くの食品も自然にある資源から作られています

多くの食品は、自然にある資源から作られており、食や廃棄も自然から帰ってくるものです。また食べられるのにごみとして捨てられる食品のことを「食品ロス」と言います。食べられるのにごみになってしまうのは、とてももったいないことです。

日本の食品ロス 1年間の日本の食品ロス 約632万トン

国連が1年間で世界全体に提供している食糧の量 約320万トン

日本では、1人1日お米約1杯分(約136g)の食べ物が捨てられています

① 日本の年間ごみの総排出量

(出典：環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(平成27年度)」)

日本全国のごみ総排出量は、平成27年度で4398万トンで、1人1日当たりに換算すると、939グラムになります。平成12年度以降は、継続的に減少していましたが、平成23年度以降は、微減少傾向にあります。

また、東京都の総排出量は、平成26年度で約450万トンになっています(東京都環境白書2016)。日本全国と同様に平成23年度以降は、わずかな減少傾向にあります。

② 家庭から出るごみの種類

(出典：環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査(平成26年度)」)

家庭から出るごみの種類で多いのは、紙類と生ごみです。生ごみの中には、食べ残しや賞味期限が切れた食品などが含まれます。

③ ごみを減らすための環境活動「3R」

ごみに関する問題を解決するために、生活の中で「もったいない」を探し、3Rが示す3つの行動の中から、自分にできることを考えることが大切です。

◆ 3Rの取組と地球温暖化

アルミ缶の製造では、原料であるアルミニウム(合金)を用いた場合に比べ、リサイクル原料を使った方が製造に要するエネルギーを大幅に節約できることが分かっているなど、3Rの取組が温室効果ガスの排出削減にもつながることが、環境省から発表されています。

④ 食品ロス

まだ、食べられるのに捨てられてごみになっているものを「食品ロス」といいます。

日本の食品ロスは、1年間で約632万トンもあり、国連が世界中で飢えに苦しむ人々に援助している食料の約2倍にもなります。日本人1人当たりに換算すると、お茶碗一杯分の食べ物が捨てられていることになります。

食品ロスの約半数は、家庭から出ています。食品となる資源を世界中から輸入しながら、ごみとして大量に捨てていることになります。

★国連は、国際連合の略称で、世界の安全や発展のために協力することを目的に国連憲章に基づき設立された国際機構です。

⑤ 都の取組

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で使われるメダル5000個分は、携帯電話に換算して2000万台分の金・銀・銅が必要です。

⑥ 自分にできることのヒント

- ・身の回りで、リサイクルできるものに何があるか考える。
- ・リサイクルは、何のためにするのか考える。
- ・マイ箸を携帯する。
- ・使い捨て型の食器類は使わない。
- ・詰め替え製品を使う。
- ・買い物袋を持参して、レジ袋は使わない。
- ・家庭で出たごみは、分別して定められた場所に出す。
- ・トレイや牛乳パックなどの店頭回収に協力する。

⑦ 「もったいない」は、ごみを減らす合い言葉です。

ごみの量を減らす(リデュース)・修理などして繰り返し使う(リユース)・使い終わったものを再利用する(リサイクル)という3Rを一言で表した、日本の言葉です。

東京都の主な環境学習施設

区市町村名	施設名称	所在地	問合せ先
千代田区	リサイクルセンター鎌倉橋	千代田区内神田 2-1-8 (スポーツセンター地下1階)	03-3253-1970
中央区	中央区立環境情報センター	中央区京橋 3-1-1 東京スクエアガーデン 6階 京橋環境ステーション内	03-6225-2433
	リサイクルハウスかざぐるま明石町	中央区明石町 14-1	03-3546-2991
	リサイクルハウスかざぐるま箱崎町	中央区日本橋箱崎町 36-15	03-3668-5037
港区	港区立エコプラザ	港区浜松町 1-13-1	03-5404-7764
新宿区	新宿区立環境学習情報センター (エコギャラリー新宿)	新宿区西新宿 2-11-4 (新宿中央公園内)	03-3348-6277
	新宿区立新宿リサイクル活動センター	新宿区高田馬場 4-10-2	03-5330-5374
	新宿区立西早稲田リサイクル活動センター	新宿区西早稲田 3-19-5	03-5272-5374
文京区	水道歴史館	文京区本郷 2-7-1 本郷庁舎 2号館	03-5802-9040
台東区	環境ふれあい館ひまわり	台東区蔵前 4-14-6	03-3866-8098
墨田区	すみだリサイクル活動センター たんぽぽ	墨田区横川 5-10-1-111 プリメール柳島	03-5611-7740
江東区	環境学習情報館 (えこっくる江東)	江東区潮見 1-29-7	03-3644-7130
品川区	品川区環境情報活動センター	品川区広町 2-1-36	03-5742-6533
目黒区	目黒区エコプラザ	目黒区目黒 1-25-26 田道ふれあい館地下1階	03-5721-2300
大田区	東京港野鳥公園	大田区東海 3-1	03-3799-5031
世田谷区	エコプラザ用賀	世田谷区用賀 4-7-1	03-3708-4081
	リサイクル千歳台	世田谷区千歳台 1-1-5	03-5490-1020
	世田谷区資源循環センター リセタ	世田谷区大蔵 1-1-12	03-5432-2929
渋谷区	渋谷区ふれあい植物センター	渋谷区東 2-25-37	03-5468-1384
中野区	中野区環境リサイクルプラザ	中野区中野 5-4-7	03-3389-0600
杉並区	環境活動推進センター	杉並区高井戸東 3-7-4	03-5336-7352
豊島区	豊島区生活産業プラザ ECO としま	豊島区東池袋 1-20-15	03-5992-7011
北区	みどりと環境の情報館 (エコベルデ)	北区豊島 5-6-1 豊島五丁目遊び場内	03-3913-8340
荒川区	あらかわエコセンター (環境学習情報センター)	荒川区荒川 1-53-20	03-3802-3111
板橋区	板橋区立エコポリスセンター	板橋区前野町 4-6-1	03-5970-5001
	板橋区立熱帯環境植物館	板橋区高島平 8-29-2	03-5920-1131
	板橋区立リサイクルプラザ	板橋区舟渡 4-16-6	03-3558-5374
練馬区	練馬区立豊玉リサイクルセンター	練馬区豊玉上 2-22-15	03-5999-3196
	練馬区立春日町リサイクルセンター	練馬区春日町 2-14-16	03-3926-2501
	練馬区立関町リサイクルセンター	練馬区関町北 1-7-14	03-3594-5351
足立区	足立区荒川ビジターセンター	足立区千住 5-13-5	03-5813-3753
	足立区リサイクルセンター あだち再生館	足立区中央本町 2-9-1	03-3880-9800
葛飾区	葛飾区かつしかエコライフプラザ	葛飾区立石 1-9-1	03-3696-8225
江戸川区	えどがわエコセンター	江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3階	03-5659-1651

■市町村の環境学習施設については第3回で御紹介します。

編集・発行：東京都教育庁指導部義務教育指導課